

委員会審議		令和4年6月16日	
申請者		呼吸器内科医師	野中 水
1		気管支鏡検査で診断された肺非結核性抗酸菌症患者の増悪因子に関する研究	
研究の概要		<p>概要</p> <p>(1) 目的 気管支鏡検査で診断がついた肺NTM症の増悪予測因子を明らかにする。</p> <p>主要評価項目 気管支鏡検査で診断がついた肺NTM症患者を後方視的に検討し、診断後に増悪した患者と安定していた患者の2群の臨床情報の差異を検討する。</p> <p>(2) 対象及び方法 2013年1月から2017年12月の間に当院で気管支鏡検査を行った症例の中で、気管支鏡検査で肺NTM症と診断された症例を抽出。検査日前後4年間の電子カルテにより得られる臨床情報(年齢、性別、身長、体重、臨床症状、既往歴、生活歴、治療歴など)、画像検査(胸部X線、胸部CT検査)、血液検査(血算、生化学)、細菌学的検査を後方視的に検討し解析する。</p> <p>(3) 実施場所及び実施期間 実施場所: 当院外来、入院 データ集計・解析期間: IRB承認後～ 2024年12月31日 データ保存期間: IRB承認後～ 2029年12月31日</p>	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された	